

東日本大震災時、被災地域において外国出身住民と日本住民との間で大きなトラブルが発生することはなかった。むしろ、特に発災直後においては、外国出身者が日本人の地域住民を支援・救援する状況が目立った。また、周知の通り、海外からは多くの人びとがボランティア活動を行うために被災地を訪れもした。このように震災後は、大規模に国境を超えた「友愛」や「連帯」が被災地を中心に生まれた。

その一方で、震災から4年が経った今、日本国内では、国を超えた友愛や連帯の機運は影をひそめ、逆に、東京や大阪を中心に特に在日コリアンを標的にした「ヘイトスピーチ」、すなわち憎悪や偏見を煽る表現行為が目立つようになっている。今のところ、東北地域ではこうしたヘイトスピーチの動きは本格化してはいないものの、今後、浸透してくる可能性は否定できない。こうした現状を考えると、ヘイトスピーチがなぜ今、起こっているのか、どのようにして防ぐことができるのか、という問題について、一時的にせよ震災後に国境を超えた「友愛」や「連帯」を大規模に経験した被災地において考えるのは意義深いものと信じる。

多文化共生社会の行方
—ヘイトスピーチ問題の背景・影響・実践的解決—

日時 2015年 **3月21日(土)** 13:30~17:00 (13:00 開場)

場所 東北学院大学土樋キャンパス8号館(5階) **押川記念ホール**

- プログラム**
- 13:00 開場
 - 13:30 開会・挨拶
 - 13:40 第1部・発表
 - ヘイトスピーチ問題はどのようにして生まれたか
 - ・「ヘイトスピーチと現代社会」 鄭暎恵 氏 (大妻女子大学人間関係学部教授)
 - ・「ヘイトスピーチと報道」 石橋英昭 氏 (朝日新聞記者)
 - ・「ヘイトスピーチと若者文化」 和泉奈緒 (本学経済学研究科修士1年)
 - 14:50 第2部・発表
 - ヘイトスピーチ問題とどう闘うか
 - ・「ヘイトスピーチと法的規制」 明戸隆浩 氏 (関東学院大学ほか非常勤講師)
 - ・「ヘイトスピーチと反ヘイト運動」 金明秀 氏 (関西学院大学社会学部教授)
 - 16:00 第3部・討論
 - 多文化共生と地域の未来
 - ・「発表のまとめと問題提起」 郭基煥 (本学経済学部教授)
 - ・総合討論「ヘイトスピーチと闘う〈地域資源〉は何か」
司会：佐藤信行氏 (在日韓国人問題研究所所長)

17:00 閉会

問い合わせ先

東北学院大学地域共生推進機構 (事務局：学長室事務課)
TEL.022-264-6424 / FAX.022-264-6364
E-Mail kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

入場無料
申込不要